

④ 教育方針

遊びを中心に楽しみ生活を展開させ、伸びやかに周りの環境と
かかわり、子どもらしく、且つたくましい人間性を養いたい。

幼稚園教育は環境教育と言われています。園舎や園庭、おもちゃなどの物的環境と先生や友達などの人的環境双方の影響を受けながら、学び成長していく教育です。

認定こども園百石幼稚園では、開園当初より、遊びを中心として教育が行われています。そのために広い園庭が用意されており、活動は園児がのびやかに周りの環境とかかわりながら、工夫探求できるよう、主体的に選択できるようになっています。

近所に小さい子が沢山いて、空き地や公園が子どもの遊び場だった時代は、今変わろうとしています。そこで学んだ集団や遊び方、異年齢児との関わりを学ぶ機会は極端に減ってきました。

同年代の子どもたちと真剣にぶつかり合う事、自分の身体を思い切り動かすこと、創造力を働かせて何かに没頭すること。これまで認定こども園百石幼稚園で行われてきた普通の保育が、今まさに子どもたちに必要とされています。

時代を先取りし子どもたちのために変わっていく環境とともに、変わらないものも大事にしながら、必要な教育を行ってまいります。

子どもらしい子どもにそだてることもまた、認定こども園百石幼稚園が大事にしていることです。

どろんこあそび、砂あそび、あそびはなんでも大好きで
友だちがたくさんいて、虫や動物や花が好き
ときどきけんかやチョッピリいたずらをして
おかしいときには大笑い 悲しい紙芝居や童話の時には涙ぐみ
しかられたりするとしゅんとなり
ほめられると 有頂天となってよろこぶ
へんじ あいさつ しつけのけじめだけは しっかりして
目はきらきらと輝いている
こんな子どもらしい子どもにそだてたいものである。

(倉橋惣三)

この詩に書かれている子どもこそ、認定こども園百石幼稚園が目指す子どもの姿そのものです。今必要な経験とは、このような経験ではないでしょうか？